

# ベトナムに生産拠点

## 石金精機 工作機械部品など

機械部品製造の石金精機(富山市)は3日、海外で初の生産拠点をベトナムに開設すると発表した。4月末に関連会社を設立し、10月に操業を始

める。工作機械や半導体製造装置の部品を製造し東南アジアに進出した日系企業などに売り込む。ベトナムのフイエン省にある工業団地の工場

を借りる。延べ床面積は840平方メートル。切削や穴開けといった加工が1台でできるマシニングセンターや研削盤の設置と内装工事に約1億円を投じ

る。早期に海外売上高を現状の3000万円から1億円に高め、需要の縮小の見込まれる国内市場を補う。海外生産で製造コストを約2割抑え、タイやインドネシアに進出した日系工作機械メーカーの需要を開拓する。日本国内生産が多い半導体製造装

置向けの部品はベトナムから日本に輸出する。

同社の清水克洋社長は「東南アジアへ生産を移す工作機械メーカーが増えており日本にとどまっていたのは受注が減ってしまった」と話す。これまではシンガポールの販売会社を通して日本から輸出していたが高コストが課題で市場開拓が難しかった。

4月末に設立する関連会社8人体制でスタートし、社長も含め、従業員は同社の富山の工場勤務経験のあるベトナム人で構成する。清水社長は「現地に通じるベトナム

人に社長をしてもらった方が、将来の現地での採用活動にもプラス」と狙いを語る。